

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	隣接クリニックへの通院で、健康で安心して暮せる。同じく隣接の特養と老健の各種行事やイベントへの参加。月7回のボランティアによる各種趣味教室の開催。幼稚園や地域からのイベント参加要請に出かけるなど「安心と笑顔」「来訪と訪問の多い暮らし」を中心に、「家族にとって実家といえるホーム」作りを行なっている。		現在の取り組みを継続・発展させることが、地域の理解を深め、地域に根ざすことに繋がると考えている。
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	健康への様子観察と報告・連絡。精神面の伝達と観察。この2点を出勤時に日誌と個別記録で確認し、口伝によってその補足を行なうと同時に、連絡帳などで通院や催し物など日課確認の引継ぎをしている。その継続が理念の「安心と笑顔」に結びつくと考えている。		
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	健康面は看護師を当初から雇用し特化してきた面もあるが、介護職員から積極的に家族に話し掛け、近況報告をし、家族からの質問にも答え、雑談も重要なアイテムとして「実家の気安さ」を心掛け築いてきた理念もある。また、馴染みの理美容室の利用や趣味としていた催し物へ出かけるなど取組んできた理念もある。		地域への広報に力を入れ、認知症への理解を深める場としての利用に取組みたい。
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	特養等の敷地内で住宅地から離れていることもあり、ボランティア等を中心に庭花のやり取りや催し物への招待をいただくことが多い。敷地内を犬の散歩路にしている人達と笑顔で挨拶するなどもある。		
5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	在住した老人会のカラオケへ毎週参加している方がいて送迎している。商店街の地域活動が盛んで毎回招待を受け参加している。幼稚園の遠足や運動会に別動で参加したり、訪問を受けたりしている。ボランティア犬など法人の催しにも参加するなど、交流の場には積極的に参加している。		気軽に立ち寄れる場所まで認識を深めたい。
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	家族介護教室等への講師派遣。見学者や実習の積極的受け入れ。職員やボランティアの知人や電話による相談も多く、認知症以外の相談も出来るだけ答えている。		認知症の理解の場としてもっと利用しやすく伸ばしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		社会資源としての協力をしていきたい
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活の中でなにげなく発せられる言葉への注視と対応を中心に、家族との意見交換などを大切にしている。また、法人の第3者を含む苦情委員会や外部の申し立て機関を玄関に掲示するなどしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月例の広報紙では、生活風景の写真を多く載せ、入退所や職員異動も載せている。金銭管理は毎月別に領収書添付で報告している。それ以前に、週1回以上来訪する家族が多いので、日常会話として報告がなされていることが多い。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	週1度以上、来訪する家族が多く、新たに行ないたい介護や購入物の相談など都度相談していることが多い。また、事前に約束事とされてない事項については電話連絡等で許諾を得ている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、全体会議を実施。また、日常の中でも意見や提案があれば発言できる環境になっており、連絡帳や口伝で意見を取りまとめ、実施できることは会議を持たずに行なうこともある。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話合いや勤務の調整に努めている。	全体参加のような行事は、事前に配番調整をしボランティアや家族の要請もして行なう。日常の活動変更は2ユニットで相談したりして、日課調整で人員を確保する。急病等は管理者に連絡し、人員手配をしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	退職・新任を除き、職員の異動は両ユニット間で行なわれたが普段から交流している為か、特段のダメージは見られなかった。また、出勤・退勤時に移動職員が顔を見せるようしていたことも要因だったかもしれない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>当法人や関係法人での研修会には多くを参加させている。外部講習会には内容に応じて参加させている。また、法人の各種委員会へも参加させている。内容報告もなされている。</p>	<p>「権利と擁護」等、必要な外部研修会への参加を増やしたい</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>江別市内のグループホーム交流会があり、管理者が参加している。その催し物には、利用者や職員も参加し情報交換を行なっている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>個々の健康状態は比較的オープンに情報交換されており、管理者含め職員間で配慮・支援している。また、年2回の個人面談を実施し、家庭事情や職場環境などもある程度所長が把握している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>年2回の個人面談を中心に、日常の中においても実績や個々の努力に対する評価を提示し、意見交換をもって理解しあえるよう努力している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所相談は家族来所が多く、詳細に情報交換をした上で本人の来所も要望し、信頼していただいて申込書提出に至るようにしている。また、入所内定時に再度、本人と面会し履歴や意向をよく聴き、了解を得られてから契約するようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所相談時、当施設の内容を理解し、家族・本人の意向を聴くために十分な時間を充てるようにしている。他のグループホームの見学も薦め、信頼していただいて申込書提出に至るようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、介護現状の詳細を聴くことから始めるようにしている。状況に合わせて在宅サービスなどの情報提供もした上で意向確認している。また、当ホームは緊急度が高い方が申し込み順番より優先することも理解した上で申請書を提出してもらっている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族と相談の上、入居前や当日に家族も交えて他の入居者さんと交流する時間を設けるようにしてもらっている。また、入居当初は出来る限り頻回に面会に来ていただけるよう依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	高校野球など一緒に地元をテレビ応援したり、子供やペット、懐メロのビデオを觀賞したりして共通の話題や思い出話などを生み出すよう工夫している。思い出話には「学び」が多い。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	「家族にとってホームは実家」の理念は、職員が開設当初から心掛けてきたことであり、ご本人から聞いたご家族の思い出話で大笑いしたり、市内の安売り情報の交換をしたり、悩みや不安も含め「職員はいとこ」の意識で接している。		日常的に生活風景をカメラ撮影し通信紙に掲載したり、外出風景をビデオ撮影して家族に見ていただくなど、雰囲気を身近に感じていただけるよう工夫している。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員と家族の信頼関係の構築が家族との関係回復や向上に結びつくと考えており、実例もあり実感している。週1回以上の面会も多い。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	馴染みの理美容室の利用など開設当初から心掛けている。本州の同級生が数日泊まっていったり、ご近所だった方の面会も多い。老人クラブに毎週、送迎している事例もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	苦慮するケースもあるが努めている。メインリビングのほかに、2ヶ所のサブリビング(4畳半)があり、状況によって職員と利用したり、懐メロなど共通趣向のビデオを流す等、工夫している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	転移先を訪れたり、家族と共に来所されたりしている。お亡くなりになった方の家族がしばらく遊びに来られたり、現在もお付き合いがあるケースもある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	勘違いや妄想から来る要望に対しても家族と連絡し対応するようにしている。帰宅願望やその他の苦慮ケースも、許諾してから対応をするよう考慮している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居内定時に、出生地から生活地、家族、職業、趣味嗜好までお聞きし、入居後の不明な話しも家族に聴くなど把握に努めている。生活歴の把握なくして、対応への信頼は得られないと考える。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別記録は、昼夜に渡る毎日の行動や、通院時の診察内容や薬効の記載している。夜勤日誌には夜間の行動パターンが一目できるよう工夫し、バイタル・水分・食事・排泄などの各種チェック表も記入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護については項目通りの計画作りをしている。健康管理についても看護・家族・職員で協議し、通院や主治医の治療等アドバイスを得ている。食事は法人の栄養士の献立を基に作り、栄養の偏り等ないようアドバイスをもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ケース、3ヶ月定期的カンファレンスを実施。必要時は、毎月のカンファレンスに提言している。また、大きく方向性の変わらない介護方法の微修正は、介護支援専門員と日々協議しながら随時行ない、家族にも都度説明し、大きく変化した場合は、事前に介護支援専門員が家族と協議し計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別記録は、日勤日誌・夜勤日誌とも連動して記載するようにしており、出勤時に全員が見るようにしている。また、医療関連の情報も記載してある。したがって、日誌から注目事項を読み取り、個別記録から詳細や経過を把握し、口伝も含め個々の状態を共有して介護にあたっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	クリニック・老健・特養と隣接し、併設の認知症デイサービスとも交流を持つなど、他事業所も含め柔軟な支援が出来るよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	月に、ボランティアによる民謡・大正琴・織物・お話し等の教室を各2回開催している。自治会や文化団体のイベントのお誘いには必ず参加している。また、老人クラブの協力で入居前と同様にカラオケを楽しみに通う方もいる。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	当ホームの立地環境から、法人内の事業所や隣接の医療法人の事業所等、不定期にイベント参加や活動の利用がある。また、専門職種の方から助言をもらったりしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	具体的な事例はまだないが、アドバイスや情報を中心に連絡しあっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	開設時より看護師を雇用し健康管理や通院等を行なっている。また、訪問看護ステーションとも契約し補完的に支援してもらっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	隣接クリニックの担当医は認知症に詳しく、看護師も対応に慣れており、常時相談しながら受診等おこなっている。また、休診日も訪問看護センターなど関連施設の看護師の支援が受けられる体制にある。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	開設時より看護師を雇用し健康管理や通院等を行なっている。また、訪問看護ステーションとも契約し看護師間で情報を共有しながら体制を整えている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時または入院に至りそうな場合の通院には、家族と共に看護師・管理者が同行し、診療方針を共有すると共に、看護・介護の情報など提供し、治療・退院に向けた協議を定期的に行なっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看護・介護の重度化には、家族と共にかかりつけ医の助言をもらいながら方向性について協議してきた。終末期についても同様の対応になる。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期の事例はないが、重度化に伴う話し合い時に医師の助言をもらいながら、方向性として段階的に見極め時を定めながら話し合いをしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅からグループホーム入居、またはグループホームから病院や別施設などへの移動時には、家族を含めた三者での協議と情報交換を行い、移動後は様子を見に行くなどケアにも努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	失禁時には、浴室周辺でトイレ・洗体・着替え・洗濯まで人目につかずにできることや、居室以外に一人になれるサブリビングも2ヶ所造るなど、設計段階からプライバシーや尊厳を重要視している。声掛け・対応など処遇も日々留意し、個人情報の取り扱い範囲も家族確認してある。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	表出の難しい方には、普段の動作などから傾向を理解し幾つかの声掛けで意志を確認できるようにしている。常時の引きこもりや臥床などの要求には、受け入れた後に適度な時間での声掛けなど配慮している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合やペースで日課を進めないよう当初から取り決め、生活の混乱や廃用に繋がるような事例にはカンファレンスにより個々に合わせた対応を申し合わせている。		必要に応じた個別の日課作りを強化していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は馴染みの店を基本とし、店と連絡しあって送迎したり来所してもらったりしている。衣服の購入もご本人が選択困難な場合は、ご家族に好みの物を購入して頂くよう依頼するなど協力しあっている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	肉嫌いな方には別のおかずを用意するなど配慮している。もやしの芽摘みから調理まで、個々の力や意欲に合わせて協働をお願いしている。最低でも、下膳は各自を基本とし協調感覚を維持している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師の許諾を原則にお酒もタバコも許可している。お酒やおやつは、糖尿や心臓などの病で不許可の方に配慮して、居室や家族との外出時など時間や場所を工夫している。タバコは火事に配慮し職員管理で場所を決めて吸ってもらっている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	体調不良時を含め、個々の排泄状況や状態を把握し声掛けや介助をしている。プライドにも配慮し、一律の声掛けや対応にならないよう配慮している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人のご本人の意向を基本としているが、大儀がる人でも3日に1回を最低ラインとしている。時間帯については、およその範囲があるが、個々に曜日や時間帯を決めてなく、意向やそのタイミングを重視して実施している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	筋力の低下や生活の混乱につながらない限り、本人の意向を基本にしている。また、課題となる場合でも意向を優先し、時間などに配慮・工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の希望以外には、趣味教室の定期的な実施や気候に合わせた日課の工夫など意識的な企画や、好みの音楽やビデオ放映・ゲームなど状況や雰囲気によって工夫するなどしている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族と相談のうえ個人で管理している方もいるが、多くは事務所金庫でお預かりしており、不安時はお見せしたりして了解を得ている。必要時も個々の力に合わせ所持したり代行したりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	悪天候や休業日を除き基本的には意向に沿うよう支援しているが、職員数や時間帯によって応じられない場合は、別日を設定するなど了解を得ようしている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	訪問時、一緒に外出する家族も多く、意向にそったり意向を引き出して職員が付き添うこともある。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙はほとんどないが、希望により電話の支援を行なっている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	理念として掲げ、開設当初より一番大切に心掛けている事柄である。本州からの友人や兄弟が何度か長期滞在したケースもある。また、毎日のように訪れる家族も多く、職員も加わり会話に花を咲かせることも日常化している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設当初より、強い帰宅願望には職員と一緒に付き添って歩くなど拘束・抑制は行っていない。また、法人の抑制廃止委員会への参加や、内容報告などで共有もして、常時のケア場面でも職員どうしでの打ち合わせや管理者への確認がある。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上、鍵はしていても内鍵であり拘束・抑制に繋がる施錠は一切ない。玄関出入りにはセンサー音にて対応し、外出に気付かぬ場合でも外出時間や外出方向が判るよう、玄関先に防犯カメラを設置し事故に繋がらぬようしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日課項目で、自然と所在確認となるよう目視抑制にならぬよう配慮している。また、転倒などの注視者には居間でくつろげるよう居場所作りを心掛けている。</p>		
<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>薬・漂白剤など重大事故に繋がるような物品以外、不自然に隠すような対応はしていない。誤飲・誤食は個々に留意し、日常物品の危険物は一般家庭並の整理整頓で対応している。</p>		
<p>事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>応急処置や緊急時などのマニュアルがあり、法人の研修や年2回の避難訓練など万が一に備えている。また、急変や転倒など想定できる場合は常に看護婦や管理者が夜勤者への打ち合わせに確認や指導をおこなっている。</p>		
<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>応急処置や緊急時などのマニュアルがあり、法人の研修や年2回の避難訓練など万が一に備えている。また、急変や転倒など想定できる場合は常に看護婦や管理者が夜勤者への打ち合わせに確認や指導をおこなっている。</p>		
<p>災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回の避難訓練前後の打ち合わせや反省会で火災以外の災害も含め確認しあっている。また、隣接している特養や老健と緊急時の協力体制やマニュアルもあり、毎回の避難訓練時や緊急召集だけの訓練も行なっている。</p>		
<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時含め、病状や体調など個人の状況に合わせて随時行なっている。必要に応じて医師との面談をセッティングするなどし家族の理解をえている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック実施など、体調に関する各種チェック表の視確認と職員間での申し送り。日誌や個別記録への記載と確認。即時の通院や救急搬送など、状況に応じた処置方法の確認を随時行っている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しい投薬については、看護師より申し送りや連絡帳にて必要事項を伝えている。また、効能等をいつでも確認できるよう個別ファイルに飲薬すべての効能用紙を挟んでいる。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄・水分・食事・バイタルのチェック表の記載や申し送りで体調を理解し、予防含め看護師によって処置や通院を行なっている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	能力に合わせて個々に対応し、自己保持できる方にも必要に応じて援助している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人の栄養対策委員会への参加。栄養士によるメニュー作成。毎日の水分・食事チェック。残食の傾向チェックなど、状況に合わせて随時対応したり、カンファレンスで協議している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人の感染対策委員会への参加しマニュアルもある。時期に合わせて外出先を検討したり、消毒など予防徹底期間を設定するなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒警報は即時法人から連絡が入り、時期に合わせて食材やメニューを考慮するなど予防を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	家族と一緒に花や野菜のプランター作りを行い、玄関や窓から見える場所に配置している。また、冬期間も室内や居室に植物があるよう工夫し、そのことによって家族も協力してくれている。また、ボランティアの方が庭花を持ってきてくれることも多い。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用場所には季節ごとの装飾も心掛けています。照明は暖色系としレースカーテンなどで光や風を和らげられるようにしています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他に2つのサブリビングがあり、居室以外に一人で静かに過ごしたり、家族等気心した人と過ごしたりしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居後も家族と相談しながら、好みや思い出の品を持ち込んでもらったり、飾ったりしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	リビング以外に冷房を置かず、居室窓からの風が廊下の障子窓を通り抜け、隣室やホーム全体に流れるよう設計してある。冷房操置も冷風が直接当たらず、じんわりと室温を下げるよう工夫している。また、臭気にも常々気をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>日々の会話や言動で確認しえた事柄を共有し、介護に反映するよう努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>TVや音楽など一緒に見たり歌ったり、個々に合わせて会話したりしている</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>過度の引きこもりや寝たきりにならない程度に個々の意向を優先している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>心身状態が不良時でも、ジョークや介護で笑顔がでるよう努めている</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>外出を拒む方や心身状態で遠出できない方もいるが意向に沿うよう努めている。また、家族が都度外出に連れ出すなど協力もある。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>隣接医療機関の協力で些細な事柄まで相談できる</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>思い込みや混乱などは起因を分析することで統一した対応をし、安定している</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>雑談含めどの職員とも気軽に会話できる雰囲気ができており、相談事の内容により家族も相手を選択しているし、職員の判断でこちらから声をかけたりしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>頻度に偏りはあるが、ほぼ全員に知人の来訪が年に数回あり、毎週趣味教室のボランティアがあり会話も楽しみにしている。家族も他の入居者さんに話しかけてくれるので、馴染みの方との会話は左記回数かと思う。家族の来訪は週1回以上が平均。</p>

サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている <u>あまり増えていない</u> 全くいない	以前から地域の方がボランティアで法人にきており、開設前からグループホームに関心をいただき趣味教室の常設に至った経緯がある。運営推進会議にて理解の深まりはあったと思われるが、通常の交流による効果のほうが大きいと思う。
98	職員は、生き生きと働いている	<u>ほぼ全ての職員が</u> 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	介護政策の影響による問題を除けば、職員個々の個性を発揮し笑い声のある生活を実践していると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<u>ほぼ全ての利用者が</u> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	まだまだ努力すべき面もあると思うが、不満や悪感情が毎日出たり、数時間も長引くなどの例はなく、心身不良時でも笑顔を見られるなど誠意は伝わっていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<u>ほぼ全ての家族等が</u> 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	来訪時の会話から要望や提案もあり、実情や方針も各職員が話せる雰囲気が出ており、充分理解していただいていると考えている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 四つの理念のうち「家族にとって実家と思える家」は、半数以上が福祉未経験の職員にとって、開設から5年頑張ってきたと自負できる事柄で成果があったと考えます。また、隣接クリニックと結びついた「健康への安心」、特養・老健とも隣接しながら「独自色のある安心」と「連携のある安心」は、ご家族からよく出る内容です。